

## 第5回 館山市総合計画審議会 会議記録

1. 日時 平成27年6月1日(月)午後1時30分～
2. 場所 館山市役所 本館2階会議室
3. 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	石井 信重	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
教育関係者	半澤 美緒子	館山市教育委員会 推薦
	澤田 茂一	国立館山海上技術学校 推薦
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推進
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	古橋 博子	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 高橋委員、小金委員、須田委員、池田委員、三浦委員

#### 4. 議題

- (1) 基本構想案に係るパブリックコメント実施結果
- (2) 団体ヒアリング実施結果
- (3) 館山市人口ビジョンについて
- (4) テーマ別意見交換
- (5) その他

#### 5. 会議の経過

- (1) 新委員への委嘱状交付（澤田茂一委員：国立館山海上技術学校 推薦）

- (2) 議事

##### ① 基本構想案に係るパブリックコメント実施結果

（事務局より説明）

杉井会長：説明がわかりにくかった。

原委員：事務局としては基本構想案はこのままで良いという考えだと思う。それで良いと思う。

石井（敏）委員：各論的な意見が多いので、今回いただいた意見については基本計画を作っていく中で議論すれば良いのではないかと。理念的な観点も決定的に欠落しているものはなく、広く見れば網羅されていると思うので、原案でよろしいのではないかと。

杉井会長：原案として確定するということがよろしいか。

全員：異議なし

##### ② 団体ヒアリング実施結果

（事務局より説明）

杉井会長：以上の報告について、何か意見はありますか。今回のヒアリング対象団体に入っていない委員の方で、ご意見があれば。

事務局：今回は各団体の方からご意見をいただきましたが、委員の皆様にも別の機会を設けて意見をいただきたいと思いますと考えている。

杉井会長：後日、機会を設けるとのことで、特に問題がなければ、質疑を終了したい。

全員：異議なし

##### ③ 館山市人口ビジョンについて

（事務局より説明）

杉井会長 : 人口ビジョンについては、総合戦略策定の前段として、人口に関する認識の共有、分析による課題の抽出、人口の将来展望を行っていく。ここでしっかりと課題を把握し、総合戦略の施策へとつなげていく必要がある。

これから、出生や雇用に関する分析等を行い、協議していくことになるが、現段階で意見があれば聞きたい。

では、私から聞きたい。仮定値による将来人口推計が3つあるが、何もしない場合と努力をした場合の推計があまり変わらないように思うがどうなのか。

事務局 : 自然減が大きいので、長期で見ると差が出るが、2060年までで見ると差が出にくい。

森委員 : スケールの問題かと思う。2060年を見ると、7,000人くらい違いがある。グラフではわかりにくいですが、実数では大きな差がある。

石井(敏)委員 : 人口減少は避けられない。出生率上昇+移動率0の緑色の線を目指すのが良いのではないか。年配の人は若干プラスもあろうかと思うが、若い人の転出が最大の課題だと考えている。

石井(久)委員 : (前回のテーマ別意見交換の参考として出された資料の)死亡数679人はどんな年齢層か。若い人なのか、高齢者なのか。

事務局 : 確認して改めてご報告させていただきます。

石井(久)委員 : 人口減少に対応するためには出生率を上げなければならない。出生率を上げるために、子育て環境をどのようにできるかを考えていかなければならない。

原委員 : どのように子どもを産める環境にするかということがポイントである。高齢化に伴って、高齢者福祉に費用がかなりかかってしまう中で、どういった分配をしていくのか、明確な方向性を立てていかないといけない。高齢者が多いので、気がついたら何もなくなって、子どもが産めない環境になっていたというのでは遅い。その辺を、明確にしていくべき。

覚悟をもって、次の世代のための分配をしていかななくては、若い人はどんどんいなくなる。

石井(信)委員 : 国の長期ビジョンを受けて、今後館山市も、人口の将来展望を明確にしていかななくてはいけないということで人口ビジョンを策定するのだと思うが、現状の自然減はどうしようもないという前提の中で、地域の特性を活かしながら、具体的な指標をいくつか出して、館山市独自の推計を作っていく作業であるという理解で良いのか。

事務局 : そのとおり。他の分析の項目なども踏まえて、市独自のビジョンを作っていく。

石井(信)委員 : 自然減は否めないとの前提で、館山市は合計特殊出生率をいくつに設

定するかを決めないと形は出てこない。仮に、何年にこの率を目指しましょうとなったとき、どういった事業をしなければならぬかを詰めて行く必要があるのではないか。

館山の特徴を活かす中で、どういうふうやっていくのか。

例えば、合計特殊出生率を上げるために、館山市らしい方法で、5つ挙げようとか、転出入を0にしよう決めたときに、そのためにはどうすれば良いのか、何をやっていくかを明確にして、その上で1つ1つ議論をしていった方が、わかりやすく具体的なものが出てくるのではないか。

杉井会長 : 今、館山の合計特殊出生率はいくつになっているのか。

事務局 : 1.37 となっている。

杉井会長 : では、出生率の目標を定めて具体的な方向性を決めるということが良いのか。これはこの後の議題となるのか。

事務局 : 今日の議論では具体的な数値の設定まで論点に含めてはいないが、次回以降、移動率や出生率の方向性、施策などの検討をさせていただきたい。

金丸市長 : 当市の合計特殊出生率が 1.37 という話が出たが、当市は子供を産む女性の人数自体が少ないので、年によってばらつきが出てしまう。一昨年までは 1.60 を超えていて、3年連続千葉県内でトップだった。そういう波があることを理解してほしい。

出生率に関しては地方都市が高い傾向にあり、首都圏は低くなる。一方で、首都圏に住む女性の人数は非常に多い。このことは今後、人口減少していく大きな要因となってくる。

首都圏からこちらの方に来てもらえると、全体的には子どもが増えるのではないかと思っている。

ある程度、館山市の合計特殊出生率に関しては、少し無理をしても、国が示しているもの以上の数字を提示しなくてはいけないのではないかと考えている。

石井（信）委員 : 国の長期ビジョンにならって、地方・地域ごとにビジョンをつくり、日本全体で人口を維持しようとしているのに、地方同士が人を取り合うのは違うと考えている。限られたパイを自治体同士で奪い合っては意味がない。

例えば、合計特殊出生率を 2.0 にしようとする。そのためには、女性の働きやすい場をつくるしかない。そのためには、24 時間保育をしようといった具体的な話になってくると思う。ただ、それを館山だけがやったとして、若い女性が集まってきて、館山の人口が少し維持されるかもしれないが、逆に若い女性がいなくなる場所が出てくる。

日本全体の中で考えていかなければいけない戦略であるという意識を持

っていないとおかしなことになる。難しいことだが。

金丸市長 : 私は少し今の意見とは異なる考えだ。今まで日本は、女性が働きやすい環境作りということに関して遅れてきた。ここで、自治体同士で競り合っても、意識を変え、女性労働力を高めていかないと、国の産業自体も難しくなってきた。

一番困るのは、結婚しない人が多いことだ。独身が増え、婚姻年齢が上昇している。統計やアンケート結果を見ると、女性の意識も千差万別で、1つの施策でどうにかしようとするのは難しい。

杉井会長 : 館山市では、収入は、先生、役所の公務員、民間の会社員の順番である。民間の会社員は非常に格差がある。当社でも男性の独身者が多い。共稼ぎができれば良いが、そうすると子育ても必要になる。館山市全体の所得を上げることが一番だが、方法がなかなか難しい。

望月委員 : 昔の日本は子沢山だった。貧しい国の象徴とも言えるが、労働力として子どもが必要だった背景もある。一次産業の衰退が少子化の象徴。

子供を育てるにはお金がかかりすぎている。教育費もかかるし、物価も高い。

不自然な食事も多い。添加物など。子どもができづらい母体・父体という社会風潮もあるのではないか。

それから、教育問題も1つの大きな問題。子どもたちが自分のことしか考えない。人のこと、社会のことを考えない時代になってきている。「人のために何かしなければならぬ」という使命感を持って生きていく、そのために自分たちが存在しているのだということを教育していけば、自分たちが次世代を育てていかなければいけないという気持ちも持つのではないか。もう一度日本人としての自覚を持たせるということ、館山から発信していくということが大切ではないか。

館山はとても良い食材がある。地産地消のおいしく栄養価の高いものを食べて、病気をしない強い肉体をつくり、豊かな人間としての成長を育み、大都市にはない人間性で、明日の世代を担うことを考えられるような環境を作っていくべきである。

また、人口を増やせという流れの中で、例えば、急に人口が倍になった場合、教育や病院、インフラの問題がある。社会的なインフラの中で、館山の人口は何人が適当なのか。6万人が適切ですよとなったとき、あと何人増やせるキャパシティがありますよ、という逆説的なカウントをして募集をするというのはどうか。6万人までならば、楽しい生活ができますよ、それ以上は受け入れられませんよ、と。そんな人口施策を打ち出す戦法もあるのではないか。

溝口委員 : 多くの女性は子どもが欲しいと考えているが、子育て環境や教育費などがネックになっている。社会で子育てを受け入れるものがあれば、2人目、3人目と考える人が増えるのでは。

石井(敏)委員 : 子どもを増やすためには、結婚率を上げた方が良い。結婚率を上げることは収入格差と因果関係があるが、収入を上げるのは難しい。日本でかつて結婚率が多かったのは見合い文化があった頃で、社会的にも結婚に対する圧力があった。それを政策で行うのは難しく、また、北欧のようになりべらるな風土に変えるのも一地方都市では難しい。そうなると、できることは子育て支援が中心になってくる。子どもの医療費や学費、貧困家庭に対する教育支援などが中心になるのでは。

杉井会長 : 人口ビジョンについては話が尽きない。次の機会もあるので、このあたりで話を収めたい。

金丸市長 : 結婚をしなければいけないということはないが、結婚しない人が増えているということを危惧している。また、離婚が非常に増えていることも問題である。離婚をし、所得が低い中で子育てを行っていることもある。

また、婚活も難しい。やらないよりは良いが、なかなかまとまっていかない。

「目から火の出る所帯を持ってど 火事さえ出さなきゃ水いらず」という都々逸がある。ひとりでは暮らせなくても、2人であれば暮らせる。そのようなこともあるのではないか。

石井(信)委員 : 各論の段階になれば、千差万別で色々な意見が出てくると想像できる。そういった中で、館山としては、人口ビジョンを策定するにあたって、どの辺に数値を持ってくるのか、そのためにはどうするのか。各論を1個1個やっていったら収まらないので、ある程度の目標値とそのためにな何をやるかをいくつか設定したうえで、この5年間何をやるのかといった各論を組み立てていくというやり方をしないと大変な作業かと思う。

森委員 : 人口ビジョンを考える上では、目指す数字だけでなく、世代の人口バランスを考えることも必要ではないか。

#### ④ テーマ別意見交換

※テーマ : 「今住んでいる住民の幸せのために、私たちができること」により、意見交換を実施

#### ⑤ その他連絡事項

- ・今後の全体スケジュール (資料配付)
- ・まちづくりタウンミーティングの開催について (資料配付)

- ・小中学校絵画コンクールについて

## 6. その他

田中委員 : パブリックコメントの意見が少ない印象だったが、もう少し意見を募集する PR をした方が良いのではないか。

事務局 : 今後、基本計画についてのパブリックコメントを予定している。その際は、PR をしていきたい。

以上